

土木學會第三回總會會長講演

工學博士 沖野忠雄

是ヨリ講演ニ移リマシテ私ヨリ始メマスル講演ノ前ニ諸君ニ深謝イタシマスル次第ハ私ラ此會
ノ會長ニ御推薦下サレタノハ私ニ取リマシテ洵ニ無上ノ光榮テアリマス玆ニ此會場ニ於テ諸君
ニ御目ニ懸リマシタ機會ヲ持チマシテ深ク感謝イタシマスル次第テアリマス
却説私カ今日オ話イタサウト思ヒマスル事ハ道路港灣並ニ河川改修事業ノ現況即チ此三ツラモ
ノ、今日ノ有様ヲ極ク概略オ話イタシタイト存シマス
先ツ道路ヨリオ話イタシマスルカ道路ハ内務省ノ調ヘニ依リマスルト全國ニ於テ一ト全國ト申
シマシテモ此講演ニ於テ鳥渡前以テオ斷リシテ置カナケレハナリマセヌノハ此三ツノモノトモ
本州四國九州並ニ其屬島ニ屬スル分タケニ止メタイト思ヒマス北海道朝鮮樺太臺灣等ハ少シ異
ツタ處カアリマスルカラ先ツ此本州四國九州及ヒ其屬島即チ三府二十三縣ニ屬スル分タケラ深
詰イタサウト思ヒマス扱内務省ノ調査ニ依ルト此三府二十三縣ノ道路ノ總延長カ十二萬三千里
アルノテアリマス此延長ヲ土地ノ面積一萬八千七百方里テ割リマスルト一方里六里ニナルヲ
アリマスソレテ長サカラ申シマスルト却々立派ナ成績ヲ舉ケテ居ル次第テアリマスルカ此道路
カ國道縣道里道ト斯ウ區別サレテアリマシテ國道ト申シマスル方カ凡ソ二千里アル縣道ハ八千
里合セテ一萬里テアルカラ残りノ十萬三千里ト云フモノハ里道ノ部類ニ這入ツテ居ルノテハサ
イマスサウシテ此國道ナルモノハ明治政府ニナリマシテカラ大抵改修サレマシタモノカ多ク

テ今日テハ最早昔ノ儘テ殘ツテ居ルモノハ多分少ナイテアラウト考ヘマス縣道モ亦同様ニ改修
 サレタモノカアリマシテ是レ又アマリ從來ノ儘ナルモノハ少ナイテハナイカト考ヘラレルノテ
 アリマス里道ニ至リマシテハ之モ随分改修サレマシタカ併シナカラ之ハ随分難道ノ多イ部類テ
 アリマスルカラ改修未濟ノモノカ澤山ニアルタラウト考ヘラレルノテアリマス又此改修ニ就テ
 目的トシタル處ヲ見マスルト道幅カ國道テ五間以上縣道テ三間以上ト云フ位ヲ大抵目的トシテ
 居リマスルカ併シナカラ山間ノ難場ナツハ却々此幅ヲハ豫想通りニ實行スルト云フコトハ洵ニ
 難ツカシイ場合カ餘程アツタラウト思ヒマス又勾配二十五分カラ三十分ヲ標準トシテヤツテ居
 リマスルケレトモ併シナカラ是又随分地形ノ難ツカシイ處テハ規定通りニイツテ居ラヌモノモ
 餘計アルテアリマセウ併シナカラ此改修以前ノ道路ト云フモノハ人馬ノ外ハ通行出來ナイモノ
 カ國內ニ餘程澤山アツタノテコサイマス此改修カ出來マシテカラ總テ車ヲ通スルト云フ位ニナ
 ツタノテアリマスルカラ此改修カ我邦ノ交通状態ヲ全ク一變シタト申シテモ宜イト云フ位ナ
 果ヲ收メテ居ルタラウト思ヒマス此道路改修ト云フ事ハ主ニ明治十六七年頃カラ起ツタ事テア
 リマシテ其先鞭者トモ稱スヘキ人ハ其當時福島縣令テアリマシタ三島通庸氏テアル此人ハ福島
 縣令カラ其後ニ山形縣令ヲ兼ネマシテ此兩縣内ノ國道ヲ始メ其他ノ道路ヲ改築新築シタ人テア
 リマシタカ後ニハ栃木縣ニ來ツテ同様ノ功績ヲ擧ケラレタ人テアリマス其工事ヲ進行サセル方
 法ノ如キハ如何ニモ活潑ニヤラレタノテアリマシテ大ニ天下ノ耳目ヲ一新シタヤウナ氣味カア
 リマス之カラ全國舉ツテ道路ノ改修ヲ起工スルヤウニナツタノテアリマス尙又三島氏ハ此新道
 ヲ造ルノミナラス之カ修繕ニ大切ナル制度ヲ遺サレタソレハ道路監視人ナルモノヲ常設シマシ
 テ一里ニ何程ト云フ人夫ヲ置イテサウシテ絶エス路面ノ修繕ニ從事サセル制テアリマスルカ此
 制ハ御承知ノ通り歐米ノ先進國ニ於テモツイ近年迄ハ之ヲ唯一ノ道路修繕法ト致シテ居ツタ之

レカ道路修繕ニハ最モ行届キタル處ノ修繕方法テアリマス是ハ此三島縣令カ三縣ニ勵行サレマシタニ依テ追々全國ニモ此方法カ普及スルヤウニナリマシテ今日テハ一般ニ此方法ヲ襲フテ來テヤツテ居ルノテアリマス

ソレカラ又勾配道幅ノ事ハ前ニオ話シタノテアリマスルカ路面ハトウシタカト云フト路面ハ今日ト同様テ唯砂利ヲ撒布シタト云フコトニ止ツタ道路テアリマシタ併シ其當時ハ人ハ大抵人力車ヲ往來シタノテアリマスシ又荷車モ大抵ハ人カ曳イテ居ツタヤウナ有様テアリマシタカラ荷重モ甚タ輕カツタニ相違ナイサウ云ウ譯テアリマスルカラ道路ノ壞ミモ今日程ニ激シウナイノテアリマシテ修繕モ却々ヨク行届イテ居リマシテ其時分ニハ路面ノ極ク平坦ナル道路ヲ見ルコトハ實ニ澤山アツタノテコサイマス併シ其後ニ至リマシテハ我邦ノ殖産事業モ漸々發達イタシ又鐵道ノ普及モ援ケテ居ルノテアリマセウカ詰リ交通モ餘程頻繁ニナリ又馬車荷馬車ト云フモノモ今日テハ殆全國一般ニ行ハレルヤウニナツテ來マシタカラ荷物ノ動キモ著シク殖ニテ參リマシタサウ云フ譯テ道路ノ破壞モ激シウナツテ今日テハ却々修繕ヲ行届カスニ甚タ困難ヲシテ居ルヤウナ次第テ隨分今日テハ深掘レカアリ又泥濘ノ深イ道路ヲ見ルコトハ珍ラシクナイヤウニナツテ居リマスルカ改修ノ極ク盛ンテアツタ年ト今日テハ道路ノ有様モ餘程變ツテ來タヤウテアリマスサウ云フ次第テアリマスカラ何レ之ハ第二次道路改修事業ト云フモノヲ決行スルノ時期ニ迫ツテ居ルモノト見テ宜シカラウ又歐米諸國ノ形勢ニ就テ見マシテモ彼國テモ道路ハ一時閉却サレテ居ツタヤウテアリマスルケレトモ其後復道路ハ鐵道ナリ水運ナリト同様ニ必要ナル機關テアルト同時ニ又大切ニ致サナケレハナラヌト云フ論ニナリマシテ道路事業モ追々盛ンニナリマシタカ近年自動車ト云フモノカ發達イタシマシテカラ倍々此形勢ハ判然イタシマシテ道路工事モ頻ニ起ルヤウテアリマス又道路ニ關スル問題ノ研究モ却々盛ンニヤルヤウテアリマ

4

シテ終ニハ一九〇八年ニ巴里ニ於テ第一回ノ萬國道路會議ヲ開イテサウシテ道路ニ關スル諸問題ヲ研究シタヤウナ次第テアル自動車ナルモノハ勿論ノ事從來ノ乘用馬車ニ比シマスレハ無論進歩シタ機關テアリマスルカ此乘用馬車ニ代ルノミナラス貨物ノ運送ニ就テモ今日ノ自動車ハ十分ニ堪ヘルト云フコトニナツテ居リマステアリマスカラ此自動車カ大ニ行ハレマシテ彼鐵道ト同シ様ニ一國ノ交通狀態ニ大變動ヲ來スト云フ時期モ或ハ近キ將來ニアルカト考ヘラレマス斯ウ云フ次第テアリマスルカラシテ一層第二次道路ノ改修ノ計畫サレンコトヲ希望スル次第テアリマス

道路ノ事ニ就キマシテハ概略右ニ止メマシテ次ニ港灣ノ事ニ掛リマスルカ我邦テ港灣ト稱シテ居ルトコロノモノハ其數ハ頗ル多イノテアリマスルカ其數ニ就テハアマリ判然シタ調ヘモ無ツタノテアリマスルカ去ル明治三十九年ニ内務省テ全國ニ技術家ヲ一時ニ派遣シマシテサウシテ港灣トシテ價値アルモノヲ殘ラス調査シタコトカアリマス此調査ニ入レマシタ港灣ハ凡ソ船舶カ出入シテサウシテ荷役ヲスルト云フモノハ皆港灣トシテ探ルト云フ達テ其調ヘニ依リマスルト全國ノ港灣ノ數ハ凡ソ七百七十一港アルト云フコトニナリマシタ勿論其當時此外ニ神戸橫濱大阪門司新潟其餘ノ港ハ調査ヲ一層精密ニスルカ爲ニ其外ニ殘シテアツタノテアリマスルカラソレヲ加ヘマスト凡ソ七百八十程ノ港數ニナリマステアリマスルカ次ニオ話イタシマスルハ此等ヲ省イテ七百七十一港ニ就テノ事實ヲ申述ヘヨウト思ヒマス此數ハ却々ノ大數テアリマスルカラ其内テ少シ條件ヲ設ケテ稍々重要ト見ルヘキヤウナモノヲ撰拔シテ見ヤウト思ヒマシテ其條件トシテ設ケマシタノハ第一カ出入船舶ノ噸數二十萬噸以上之レハ噸數船ノ方テアリマスソレカラ出入船舶ノ石數三十萬石以上輸出貨物ノ價格百萬圓以上後方地域ノ關係カ二郡以上其所在地ノ戶數千五百斯ウ云フ五個ノ條件ヲ設ケマシテ其内ノ三以上ニ該當スルモノカ幾ラア

ルカヲ調ヘテ見マシタカ其結果百十九ト云フ數ヲ得マシタノテコサイマス七百七十一ニ對シテ百十九港ヲ得タノテアリマスカラ此七百七十一ノ内ニハ隨分小サナ港モ通入ツテ居ルト見ナケレハナラナイサウシテ此七百七十一港ノ内テ人工ヲ加ヘテ多少ノ港灣ノ設備ヲ成シタルモノハ僅カテアリマシテ其數二十四港位ニ止ルタラウト思ヒマス其他ハ唯天然ノ儘テ使ツテ居ルノテアリマシテ勿論風波ノ淺キモ極ク完全ニナツテ居ラヌ動モスルト荷役モ出來ス又出入モ出來ヌト云フヤウナ港カ餘程多キヲ占メテ居ルノテコサイマス又大船ノ出入スルモノモ極ク僅テ多クハ小蒸汽船ナリ和船ナリニ止ツテ居ル斯ウ云フ極ク小サナ港カ多キヲ占メテ居ルノテアリマスケレトモ其輸出入スルトコロノ貨物カ凡ソトレ位ニナルテアラウカト云フト却々侮ルヘカラサル勢力ヲ有ツテ居ル併シ七百七十一港ニ就テ一々之レヲ統計スルコトモ却々容易テアリマセヌカラ曩ニ撰擇イタシマシタ百十九港ニ就テ其輸出入貨物ノ價格ヲ統計イタシテ見マスルト其一年間ノ總數カ五億圓ト云フ數ニナツタノテコサイマス之レハ明治三十九年ノ調ヘノ當時尙數年ニ上ツタ統計ヲ平均シタモノテアルノテ今日同様ナ調ヘヲ致シマシタナラハ之レヨリ餘程大キナ數ヲ得ルテアラウト考ヘラレマス之レハ價格テアリマスルカ噸數ハトシテアラウト云フコトヲ見ル爲ニ凡ソ一噸百圓ノ價格ト假ニ見マスルト即チ五百萬噸ニナル譯テアリマス極ク不完全ナ港テアリマシテ而カモ——其内ノ百十九港ノ成績ヲ見マシテモ斯様ナ大數ニナルノテアリマシテ我邦ノ沿岸航路ト云フモノハ却々輕カラヌ貨物ヲハ運搬シテ居ルト見ナケレハナリマセヌ斯様ニ盛況ヲ呈シテ居ルノテアリマスルカラ今後倍々此沿岸航路ノ運輸ヲ發達セシムルト云フコトハ最モ必要テアラウカト考ヘラレルノテアリマス若シ十分ニ發達サセルコトカ出來タナラハ今日漸次改良シツ、アル陸運ト相俟ツテ我國ノ一般運輸ヲ大ニ改良スルコトニナルテアラウト考ヘラレルノテアル併シ港灣カ現今ノ狀態ヲハ到底今日ヨリ以上ノコトハ望マレマ

6

イト思ヒマスルカラ茲ニ港灣改良事業ト云フモノヲ起シテ此七百七十一港ノ内ノ幾分ヲ改良シナケレハナラヌ乃テ先ツ此改良ノ大體ノ意見トシテハ我邦ノ沿岸ニ何程カノ港ヲ擇ヒマシテ其場所ハ築港ニ極ク適當ナル處テアリ又後方地域トノ交通モ容易ニ改良スルコトカ出來又將來商工業ノ發達ニ望ミノアル處何程カラ擇ヒマシテサウシテ之レニ築港ヲスルコトニ致シタイト存スルノテアリマス又其築港ノ規模ハ色々之レハ議論モアルコトテアリマセウカ先ツ今日ノ狀態トシテハ四五千噸乃至五六千噸位ノ船カ自由ニ出入カ出來マシテ其内ニ相當ノ荷役ノ設備ノアル大體ノ規模ニ致シテ置ケハ十分テアラウト考ヘルノテアリマスサウシテ一國ノ海外ト關係ヲシテ居ル大貿易ニ從事スル港即チ如何ナル大船ヲモ入レ得ルト云フヤウナ港ハ今日テハ巨大ナル費用ヲ要スルモノテアリマスカラ其數ハ極メテ小數ニ止メマシテ是レニ海外貿易ヲ集注スルヲ最モ穩當ナル處置ト考ヘマス而シテ沿岸ノ諸港ハ輸出荷物ヲ此大貿易港ニ運搬シ又其輸入荷物ヲ全國各方面ニ配ルコトニ致シタナラハ此沿岸貿易ヲ發達サセルコトカ出來ラウト考ヘマス尤モ我邦テ從來多少築港ノ設備ヲイタシマシタモノヤ又現今築港シツ、アルモノヲ總計シマスルト凡ソ三十港ハカリアルノテアリマスルカ其内テ北海道ニ屬スルモノカ數港アル内地ニ屬スルモノハ二十何港ト云フコト、ナリマスルカ是等諸港中上述ノ沿岸港タルヘキモノモ寡クナイテアリマセウカ尙此外ニ數港ヲ選拔シテ之レニ築港スル必要アリト考ヘマス

次ニハ河川改修ノ事ニ移リマスルカ我邦テ河川ト云フ事ハ往昔ヨリ爲政家ノ最モ留意シタモノテアリマシテ其證據トシテハ我邦ノ河川ニハ極ク有數ノモノヲ除クノ外ハ皆堤防ノ設ゲカアリマス殊ニ米作ノ必要カラテモアリマセウカ用水ノ事ナトハ餘程完備シテ居ル此邊ハ爲政家カ河川ニ留意シタ賜テアル明治政府ニナリマシテカラハ河川ニモ亦外國ノ長ヲ探ルト云フ趣意ニ出テタノテアリマセウカ夙ニ和蘭カラ技術家ヲ招聘シマシテサウシテ河川ノ工事ニ從事サレマシ

7

タ此蘭人ヲ御雇工師ト名ケテ居リマシタカ此工師等カコチラニ來ルヤ否ヤ献策ヲ致シマシタノ
ハ河川ノ利用ト云フコトハ第一舟運ニアルノテアルカラ舟運ヲ目的トシテ工事ヲ起サナケレハ
ナラヌト云フ斯ウ云フ献策ヲシマシタソレカ採用ニナリマシテ先ツ此工事ヲハ淀川ニ施行スル
コトニナツタノテアリマス此工事カ今日低水工事ト名ケテ居ル部類テアリマシテ大體ノ遣リ方
ハ低水ノ幅ヲ一定イタシマシテサウシテ水勢ヲ増シテ此航路ヲハ深クスル斯ウ云フ趣意ノ工事
テアリマス其方法モ主ニ蘭國ニ行ハレルトコロノ方法ヲ探テ粗朶ト石トヲモチマシテ原語テ申
シマスルトけれッ我邦テ水制又ハ制水工ト名ケテ居リマスルカ河岸カラ流身ニ直角ニ此制水
工ヲ出シマシテ低水敷ヲ一定スルト云フ工事テアリマス淀川ノ事ヲ少シ詳シクオ語イタシマス
ルト蘭人ノ行ツタ此淀川ノ低水敷ノ幅員ハ八十間テサウシテ水深五尺ヲ得ルノ考テアツタラシ
イ——又淀川ノ低水量ヲ八千立方尺ト定メテ居ル之レハ多分蘭人カ我國へ渡來日尙淺ク充分ノ
調査ヲ爲ス邊ナキ故假定シタノテアリマセウカ八千立方尺ハ餘リ過大テアリマシテ通常五千乃
至六千立方尺ノ水量ト見ネハナリマセン濁水ニハ夫レヨリ餘程以下ニナルコトモアリマス斯ウ
云フ譯テ五尺ノ水深ト云フコトハ先ツ水深ハ三尺ト斯ウ見ナケレハナルマイト思ヒマステアリ
マスルカ此工事ハ淀川ノ伏見ノ觀水橋カラ大阪ニ至ル間ニスツト永年繼續シテ施行サレマシテ
此ノ航路ハ餘程改良シタヤウテアリマス又其效果ノアツタコトハ淀川ノ此工事ノ完成シマシタ
ノカ二十三年テ鳥渡打切ニナツテ居リマスルカソレカラ小十年モ經チマシテ明治三十年頃カラ
淀川ノ低水位ハ漸々低下スル傾カアル今日テハ其低下ノ程度モ著シクナツテ居リマスルカ之レ
ハ即チ粗朶工事ノ結果テ航路ノ深クナツタコトヲ立證シテ居リマス

此和蘭式工事ハ淀川ト同様他ノ河川ニモ大分施行セラレマシタカ其成績ノコトハ省略イタシマ
シテ茲ニ申上ケタイノハ此蘭人ノ云フ所ノ河川ノ利ハ水運ニアルト云フ意見テアリマス之レハ

らいんをるべせいぬト云フヤウナ廣イ地域ノ運搬ヲ支配スル河川ニ在ツテハ尤モ至極ナルゴト
ヲアリマスケレトモ我邦ノ河川ハ大ニ之レト越カ異ツテ居リマシテ航路ハ至テ短シ又勾配ハ非
常ニ急テアリマスルシサツシテ低水ノ深サモ洵ニ僅カテアリマス斯ウ云フ次第テアリマスルカ
ラ之レニ改良ヲ加ヘテ見ダ處カ水運ノ改良ニ依リテ大キナ利益ヲ舉ケルコトハ到底難ツカシイ
現狀テ又從來ノ模様ヲ見マシテモ我邦テ河川ノ水運ハ僅カニ沿岸ノ小運搬ニ止ツテ小船テヤツ
テ居ル位ノモノテアル稍々大規模ノ運搬ト申セバ淀川ノ伏見カラ大阪迄ノ間ノ運搬テアリマセ
ウカ是トテ前方ハ三十石積ノ小舟ヲ使ツテ居ツタテアリマシテ今日テハ稍々大形ニナツテ五
十石積即チ二千貫位ヲ積ムニ過キナイノテアリマヌ斯ウ云フ有様テアリマスカラ水運ヲ目的ト
スル改良工事テ效果ヲ舉グルコトハ却々難ツカシイノテアリマス乃テ蘭人モ漸々我邦ノ地勢ニ
通シマシテカラハ大ニ考ヲ換ヘタト見エマシテ其手ニ成ツタ木曾川ノ改修工事テハ全然洪水豫
防ヲ目的トシテ計畫ヲ定メテ居リマス其後此ノ河川改修工事ハ蘭人ノ手ヲ離レ我邦ノ技術家ノ
手ニ入ツテカラハ其計畫ハ倍々明カニ洪水豫防永害輕減ヲ目的トスルヤウニナリマシテ即チ巖
ノ低水工事ニ對シテ之レヲ高水工事ト名ケテ其以來進行シツ、アルノテコサイマス併シナカラ
此低水工事ハ全ク廢シタ譯テハアリマセヌ川ノ或部分ニハ隨分必要ナルノカアリマス淀川下
流ノ大阪ヲ通過スル部分テアルトカ或ハ當地ノ隅田川テアルトカハ水運トシテハ却々大キナ運
搬ヲスル譯テアリマスカラ是等ニ對シテハ矢張り低水工事ヲ同時ニ目論見テ居リマス
河川改修ノ計畫ニ就キマシテ詳細ナ事ハ河川毎ニ地理其他ノ理由ニヨリ大ニ其趣ヲ異ニシテ居
リマスカラ之レカ詳細ハ時々本會ノ會誌ニ掲載ザレル報告ニ讓ルコト、致シマシテ今日ハ一般
河川ニ共通ノ點一二ヲ申上ゲヤウト思ヒマスルカ先ツ從來我邦ノ河川ハ堤防式トモ申シマセウ
カ堤防ヲ以テ治水ノ根本トシテアリマス改修ノ計畫ニモ矢張り此堤防式ヲ採ルコトニ致シマシ

タ堤防ハ洪水防禦策トシテ随分議論ノアルコトデアリマスカ改修工事ニ之ヲ採用シタル理由ハ主トシテ我國ノ農業狀態ニ歸因スルノデアリマス我國ノ農業ハ稻田ヲ多ク作ル習慣デアルカ此稻田ハ洪水ノ最モ氾濫シ易キ場所ニ多ク存在スルノデアリマス多クノ場合ニ於テ田面ト河ノ低水面トカ殆ント同一ノ高サニ位シテ居ルノテ僅少ノ増水ニ際シテモ氾濫ヲ免レヌト云フ不利ナ地勢デアアル且稲作ニハ夏期ノ六七八ノ三箇月カ最モ大切ノ時デアアルニ洪水ノ我國ヲ襲フノモ亦丁度此時期デアアル斯ウ云フ状態デアアルカラ堤防ヲ設ケテ洪水ヲ遮斷シ以テ其氾濫ヲ防クヨリ他ニ良策ハナイノデアリマス

堤防ハ勿論危險ナモノデアリマスルカ其計畫並ニ築造ニ十分ノ注意ヲ拂ヒ又修繕ヲ怠ラヌヤウニシ就中水防ニ力ヲ盡クスヤウニスレハ充分ニ洪水防禦ノ目的ヲ達スルモノデアリマス夫故ニ我國農業ノ狀況ヲ酌量シテ斷然堤防式ヲ採用シタ次第デアリマス

從來ノ破堤ノ模様ヲ調査シマスルト洪水流量ニ對スル河積ノ不充分ニ歸因スル場合カ多イ夫故改修河川ハ主トシテ其河積ヲ増加スルコトニナリマス之レカ爲メニ河幅ヲ擴張スルト同時ニ河底ヲ浚渫シテ此河積ノ増加ヲ行ヒマス此浚渫ヨリ生スル築堤ニ充用シマスルカラ浚渫土ニ餘裕ノアル場合ハ堤防ヲ必要以上ニ増築スルコトモアリマス

又洪水ノ害ニ次テ惡水ノ害モ却々重大デアリマス夫故河川ノ改修ト同時ニ惡水ノ排除ヲ改良スル道アル場合ハ必ス之ヲ實行致シマス

目今施行中ノ改修ハ明治四十三年ノ成案デアリマシテ河川ノ數カ二十箇テ之レカ改修ニ要スル費用一億七千萬圓ヲ明治四十四年度以降大正十八年度ニ至ル十九年間ノ繼續費トシテ計上シテアリマス此二十箇川ヲ第一期河川ト稱シマス之ニ次テ國ノ事業トシテ改修スヘキ河川カ尙四十五箇川アリマシテ之ヲ第二期河川ト稱シテ大正十九年度以降ニ於テ漸次起工ニナル筈デアリマ

スカ此二期河川ニ就テハ財政計畫カ未タ立ツテ居リマセン
右様ノ次第テ河川改良事業ハ道路及港灣事業トハ大ニ其趣ヲ異ニシテ居リマシテ事業ノ將來ニ
確固タル基礎ノアルノハ大ニ悦ハシキ次第アリマス
尙河川改修ヨリ生スル利益ニ就テ一言致シマスカ此事ハ河川改修前後ニ於ケル洪水ノ狀況ヲ餘
程精細ニ調査セネハ判然致シマセヌカ此調査カ又餘程難事テアツテ利益ノ判斷ニ必要ナル材料
ヲ完備スルコトカ容易テアリマセン依テ茲ニ利益ノ大體ヲ窺フニ足ルヘキ一法ヲオ話スルコト
ニ致シマスカ元來河川ノ水害ハ専ラ其流域内ノ平地ニ甚タシキ慘害ヲ及ホスノテアルカラ被害
ノ輕重ハ其平地ノ反別ニ正比スルモノト見テ宜フコサリマス曩キノ第一期河川二十箇及第二期
河川四十五箇川合セテ六十五箇川ハ全國ノ河川中其流域内ノ平地面積十方里以上ノモノヲ選拔
シタノテアツテ即チ河川ノ水害ハ平地反別ニ正比スト云フニ基キタルモノテアリマス乃テ此六
十五箇川ノ平地ヲ統計シマスルト其反別カ四百六十六萬五千六百町步ニナリマス而シテ我國ノ
平地反別ハ統計書ニ由ルト六百九十九萬二千六百二十町步テアリマスカラ六十五箇川ノ改修ニ
由リテ利益ヲ受クル平地カ全國ノ三分ノ二ニ相當スル勘定ニナリマス又第一期ノ二十箇川ノ平
地反別ハ三百萬町步強テアルカラ之レハ全國ノ二分ノ一弱ニ當リマス故ニ河川改修工事完成ノ
後ハ大ニ我國ノ水害ヲ輕減スルテアラウト思ハレマス
道路港灣及河川工事ノ現況ハ大略右様ノ次第テアリマス故我國ノ土木事業ハ將來經營スヘキモ
ノカ多々アリマシテ吾々ノ責任ハ甚重大テアリマス即チ之ヲ今日ノ講演ノ結論ト致シマシテ大
ニ諸君ノ御考慮ヲ仰ク次第テアリマス(拍手)(完)